

令和6年度学校経営計画書

学校名 三次市立川地小学校

校長名 原田 和明

I 学校の状況

学級数	7学級	児童・生徒数	57名	教職員数	15名
メールアドレス	kawachi-e@school.miyoshi.hiroshima.jp				
ホームページアドレス	http://www.miyoshi-kawachi-e.hiroshima-c.ed.jp/				

II 学校教育目標

- 【校 訓】 高 志
- 【学 校 教 育 目 標】 ふるさとを愛し、夢の実現にむけて主体的に行動する児童の育成
- 【めざす子ども像】 「よく考える子」
「かかわりあう子」
「自ら行動する子」
- 【めざす学校像】 「確かな学力をつけ、児童の夢や希望が育つ学校」
「地域と連携し、信頼される学校」
「危機管理を徹底し、安心・安全な学校」
「教師の意欲と力量が高まる学校」
- 【川地中学校区めざす子ども像】
- (1) ふるさとを愛し、誇りに思う子供
 - (2) 夢をもち、学び続ける力をもつ子供
 - (3) 社会の一員として積極的に貢献する子供

III ミッション（地域社会における自校の使命・存在意義）

地域の「ひと・もの・こと」を生かした体験・交流活動を充実させるとともに、知・徳・体の調和のとれた児童を育成することにより、保護者・地域の願いに応える。

IV 重点事項（努力点）

- 児童に基礎・基本の学力を定着させるとともに、課題発見・課題解決のために必要な思考力・判断力・表現力等の育成を図り、自ら活用する力を向上させる。
- 児童の主体性（目標に向かって挑戦する力、自ら積極的に他者とコミュニケーションを図ろうとする意欲や能力）の向上及び、他者と関わりあい協働する中で、共感力の育成を図る。

V 中心価値・行動規範

- 教育的愛情をもち、授業改善や指導力向上に努めることで児童に確かな学力をつける学校をめざす。
- 川地中学校区内の校種間の連携による教育（保小連携、小小連携、小中一貫教育）を推進し、取組の成果を広く情報発信する学校をめざす。
- 危機管理を徹底し、すべての児童・教職員にとって安心・安全な学校をめざす。

VI 現状分析

学校の内外環境の分析

外部環境	○支援的要因 【地域】 ・豊かな自然環境 ・地域の教育的資源が豊富 ・専門的な知識をもった人材の協力 俳句・防災教育 米作り・キャリア教育 福祉教育	S強み 【学校】 ・全児童の情報を共有し細かく指導を行うことができる。 ・全校活動が行いやすい人数 ・協業的校風 【児童】 ・素直で落ち着いている児童 ・何事にも興味をもって取り組む ・縦割り班による高学年のリーダー性の発揮 【保護者】 ・授業参観や懇談会の参加率高い	内部環境	○地域の特色やよさを積極的に取り入れた教育活動の推進 ・目的を明確にした地域学習や交流 ・ゲストティーチャー等地域人材の発掘・活用（人材バンク作成） ○川地小中一貫教育の推進 ・「情報を整理する力」の育成 ・表現力の育成 ・自己表現の場を広げる ○基礎・基本の学力を定着 ・系統性を意識し、思考力・判断力・表現力を育成する授業改善 ・主体的な授業研究スタイルの導入 ・ドリルタイムの効果的な活用 ・個に応じた支援 ○情報発信 ・通信の内容の工夫
	T（阻害的要因） 【地域】 ・校区が広く見学等に行きにくい ・地域の豊かな人材・資源どのように生かすか	W（弱み） 【学校】 ・校務分掌分担（組織的な業務の遂行・引継ぎ） ・全体で確認したことの徹底が不十分（指導が徹底しない） 【児童】 ・場面によってルールを守れない ・自分の言葉で伝える力が弱い ・人間関係の固定化、関わり合う力の不足 ・学習の定着度に個人差がある ・耐性（我慢する力、耐える力）が弱い 【保護者】 ・保護者同士のつながりが希薄		○見通しを持った業務遂行 ・分掌部会の機能化 ・報・連・相・確認の徹底（いつ・だれがを明確にした起案・取組） ・意識統一した指導の徹底（暮会での児童交流） ○コミュニティスクールと地域学校協働活動推進に向けた組織づくり ○集団づくり ・p d c a サイクルによる児童の主体的な活動を成功体験につなげる ・挨拶・言葉遣い・掃除等高学年をリーダーとした日常的な取組の推進 ・安心安全が保障された学級集団の育成 ・児童会・委員会活動の見える化

VII 中期経営目標及び短期経営目標

中期経営目標		短期経営目標	達成目標	取組・方策
【確かな学力】	基礎学力の定着とそれを基盤にした思考力・判断力・表現力の育成を図る。	主体的に学習に取り組む態度を育成する。	・単元末テストの平均点を、算数科は知識・技能85点以上、思考力・判断力・表現力75点以上、国語科は知識・技能、思考力・判断力・表現力ともに80点以上の児童の割合を70%以上にする。 ・「算数の時間に『解いてみたい』『考えたい』と思う」児童の割合を80%以上にする。	・基礎学力定着のために宿題や補充プリントの内容、ドリルタイムの活用を工夫する。 ・算数科の教材分析を通して、単元で身に付ける数学的な見方・考え方とその系統性を明らかにする。 ・1年間を通して、2学年ずつのブロックに分かれ、日常的に教材研究を行ったり、授業を見合ったり、基礎学力充実のための交流をして授業改善を図る。
		自分の考えや思いを、適切な言葉を用いて表現する力を育成する。(表現・判断)	・自分の思いや考えを適切な言葉を用いて文章に表し、伝えることができる。 ・「以前より自分の考えをことばで表現できるようになった」児童の割合を80%以上にする。	・週末は宿題で作文を書き、月曜日の「かくぞう朝会」において、各学級で交流をし、自分の考えが伝わるような書き表し方ができているか考える。また、友達の文章の良いところを見つけ、自分の文章に活かす。 ・火曜日の読み聞かせ朝会で「考え読み」をし、多くの文章に触れ、学級で考えながら読み聞かせることで文章読解力を身に付ける。
【豊かな心と健やかな体】	共感しあい、主体的にたくましく生きる児童の育成を図る。	本校児童に育成したい資質・能力である「共感力」「主体性」を意識し、高めようとする児童を育成する。	・学校行事において、自己の目標を達成できたと感じる児童の割合を80%以上にする。 ・自他を大切にすることができたと感じる児童の割合を70%以上にする。	・運動会・学習発表会等の行事や日常生活の中で、各学年共通の振り返りシートを学期に1回以上活用し、めあてを立てさせ、自己評価させる。 ・友達との関わりについて学期に1回児童にアンケートを取り、自分を振り返るとともに人間関係づくりトレーニング等を通して人との関わり方を深める。
		自分の心や身体に関心を持ち、健康づくりに取り組む児童を育成する。	・3快チャレンジにおいて、学年別おすすめ就寝時刻を守る児童の割合を80%以上、朝食を食べて登校する児童の割合を90%以上、朝うんちをして登校する児童の割合を60%にする。 ・新体力テスト(年2回)の記録において、前回の総合点数を上回った児童の割合を80%以上にする。	・3快チャレンジのチェック項目に「朝6時半までに起きる」を新たに加えて、早起きを意識して朝食や排便の時間にゆとりを持てるように意識させる。 ・児童の実態に即した内容の保健指導を学期に1回以上行い、意識向上を図る。保護者に対しては、保健だよりや学級通信、学級懇談会等で啓発する。 ・全校遊びや体育の授業(準備体操)、業間体育(3分間ランニング)を通して、昨年度課題だった持久力・瞬発力の向上に取り組む。 ・新体力テストの結果を児童に周知し、目的・課題意識をもたせ、日々の体力向上に取り組む。
【信頼される学校】	保護者・地域から信頼され愛される学校をつくる。	保護者の学校に対する満足度の向上を図る。	・保護者アンケート(年2回)で学校への満足度を90%以上にする。 ・各種たより、HP更新を月1回以上行う。 ・川地保育所・青河小学校・川地中学校との連携を学期に1回以上行う。	・各種便り、HP等を通して学校の様子がよく分かるように情報発信する。 ・保・小・中で交流し、連携しながら教育活動の質の向上を図るとともに、スムーズな接続を図ることができるようにする。
		教職員の授業力と組織力の向上を図る。	・教職員アンケート(年2回以上)で肯定的評価している職員を80%以上にする。(授業改善、情報共有し組織として機能、学校経営に参画、分掌の協力)	・各種研修会に参加し、1回以上は校内へ還流するとともに、校内においては年間2回の授業研究(グロックも含む)を行う。 ・分掌部会を月1回以上実施し、分掌内で協力をしながら見通しをもって文章提案を行う。(責任と組織的)

